

## 第5回生駒市立病院管理運営協議会 会議録

- 日 時 平成29年3月9日（木）午後8時00分から午後9時50分
- 場 所 生駒市立病院7階 講堂・交流センター
- 出席者
  - (1) 会 員 小紫 雅史、今村 正敏、井上 雅智、山上 正仁、成田 研二、  
前野 見依子、堀 隆、藤澤 清二、藤堂 宏子
  - (2) 事務局 【生駒市】山本副市長、古川特命監、影林福祉健康部長、増田福祉健康部  
次長、石田病院事業推進課長、伊藤病院事業推進係長、森下病院事業推  
進係員  
【指定管理者】漆間事務長、辻川看護部長、長谷川事務長補佐
- 欠席者 野田 夏子
- 傍聴者数 3名
- 会議の公開・非公開の別 公開
- 会議の内容

### 1 開会

生駒市立病院管理運営協議会設置要綱第6条第3項の規定により、過半数の会員の出席で会議が成立していることを確認。野田会員の欠席を報告。配布資料の確認。

(配布資料)

第5回生駒市立病院管理運営協議会 次第

[資料1] 平成29年度生駒市立病院事業計画書

[資料2] 平成29年度生駒市立病院事業計画書説明資料

### 2 前回会議内容の確認

<前回会議内容の確認>

前回会議では、指定管理者から提出された平成27年度事業報告と平成28年度上半期の中間報告に対する実施状況調査報告書案を提示し、取組の評価や抽出した課題についてさまざまなご意見、提案をいただきました。その後、本協議会でいただいた意見等を実施状況調査報告書案に盛り込み、報告書を確定し、会員に送付、12月市議会に報告しました。会員からの主な意見としては、

- ・脳神経外科と整形外科の常勤医師の確保が一番の課題なので、努力していただきたい。
- ・医療安全に関してデータがなく、市立病院が具体的にどういう対応をしているのかが分からない。
- ・逆紹介率が非常に低く、紹介率を上げるためには、これを改善する方法を考えないといけない。
- ・医療連携登録医について、登録されている先生からの救急患者の紹介は全部受けるな

ど、登録することのメリットはあるか。

などがありました。これらの意見をふまえ、医療安全の件に関しては、医療安全対策の具体的取組についての情報発信を検討する必要があるということで課題を修正し、医療連携登録医については、登録のメリットを明らかにし、新規登録へ働きかけを強化する必要があるという課題を追加しております。逆紹介については、紹介を受けた患者以外でも、病院での治療を終え、症状が落ち着いたら、その後の継続した観察を必要に応じて地域の診療所に逆紹介していく必要があるという課題を追加しました。前回の会議の内容については以上です。

それでは、以後の進行は協議会設置要綱第6条の規定により、会長が議長となります。よろしくお願いたします。

**【小紫会長】** それでは、改めましてこんばんは。大変お忙しい中、管理運営協議会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。管理運営協議会が立ち上がったのが、市立病院が開院された年の9月で、今回で5回目の開催となります。管理運営協議会は医療関係の先生方、自治会の関係の皆様、市民の代表に参加していただいています。多様な方が集まる非常に有意義な場ではありますが、だからこそそのような形で会議をしていくのかを、当初は我々もいろいろ試行錯誤してご迷惑をおかけしたかと思えます。お詫びと感謝を申しあげなければならないと思っています。おかげさまで前回から毎年の事業計画を作っていくにあたって、前年度や今年度の上半期の状況というものを報告させていただき、皆様からご意見をいただいて、次年度の事業計画に反映させていくPDCAサイクルがまわり始めていると感じています。生駒市立病院も、今年6月に3年目を迎えることとなります。現在、徐々にではありますが、患者数も増えてきつつあります。今回の事業計画も非常に意欲的な内容となっています。少しずつではありますが、確実にいい方向に進んでいると思います。引き続き、こういった課題があるのかを改めてしっかりと見据えて、市民のための病院ということでもますます発展、改善をしていくことが我々の使命だと思っています。管理運営協議会で土台を確立していただいた皆様に感謝を申し上げるとともに、しっかりとそれを活かしていきたいと、市長としての覚悟を新たに申し上げることで本日の挨拶にかえさせていただきたいと思っています。本日の会議については、午後9時30分の終了を目途に進めたいと思いますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議次第3、案件（1）平成29年度生駒市立病院事業計画書について、事務局から説明をお願いします。

**【事務局（市）】** それでは、資料1平成29年度生駒市立病院事業計画書について概要をご説明します。本事業計画書は、「医療提供計画」「施設管理計画」「組織図」「収支計画」の4部構成となっております。なお、今回から年度事業計画書の様式、項目等を見直し、年度終了後に計画の進捗が明確になり、病院事業の点検、評価がしやすいよ

う、年度ごとの目標の数値等を計画の随所に盛り込んでおります。また、今回の事業計画の策定に当たっては、昨年度及び本年度中間期における実施状況調査を経て、本管理運営協議会にていただいたご意見や点検、評価結果を計画に反映させた内容となっております。

資料2は、計画書の見直した内容がわかりやすいように、補足資料として配布しております。左端から、病院事業計画、平成27年度事業報告、平成28年度中間報告、昨年の実施状況調査により抽出された課題、平成29年度事業計画を表記しております。平成29年度事業計画、実施状況調査によって抽出された課題を計画に反映している部分は下線で表記し、数値目標など今までの事業計画から新たに追加された項目は、ゴシック太字で表記しています。計画の内容につきましては、指定管理者からご説明します。よろしくお願いいたします。

**【事務局（指定管理者）】** それでは資料1の1ページをご覧ください。

1 医療提供計画でございます。

(1) 診療科目は、本年度に引き続き15診療科で診療を行います。新年度は、既存の診療科の常勤医師の確保等による医療内容の充実を図ります。

(2) 病床数については、平成30年3月31日時点で実稼働可能病床数210床を、病棟編成は、4病棟のフルオープンを目指します。

続きまして、2ページから3ページをご覧ください。

(3) 人員体制は、平成30年3月31日時点で、常勤医師が27名で、診療科ごとの内訳はご覧のとおりです。准看護師、助産師、保健師を含む看護師数は外来部門が40名、入院部門が4病棟のフルオープンを想定した95名の合計135名でございます。なお、これら医療従事者の確保、特に、医師の確保については、常勤医師が不足している脳神経外科、産婦人科、小児科、整形外科等の診療科を中心に、グループ他病院からの人事異動の要請、勤務希望者の募集、大学等関係機関への継続した働きかけを引き続き行います。

(4) 患者数について、一日平均患者数は前年度の実績を踏まえ、年度当初は入院患者数は95.0人、外来140.8人から始まり、年度末には、入院患者数は140.0人、外来180.8人を目指す想定で、年間一日平均患者数が入院115.7人、外来155.0人を目指します。外来は、土日も含めた計算になっております。また、入院、外来患者数の増加に向けた取組として、市民や地域の医療機関へ、市立病院の医療に関する必要な情報の積極的な提供を行います。市民への周知の取組としては、ホームページや医療講演会を充実させ、地域の医療機関への周知の取組としては、地域の医療機関への情報提供等訪問件数の増加を図ります。

続いて、4ページから5ページの(5)質の高い医療の提供については、安全で質の高い医療サービスの提供を目指し、最新の設備を配置し、チーム医療で、患者様にとって最適な治療、ケアを行います。また、腹腔鏡下手術やダ・ヴィンチ手術を実施し、

患者の身体への負担が少ない低侵襲手術に積極的に取り組みます。手術件数、分娩件数については、ご覧のとおり目標数値を掲げております。患者満足度の向上については、入院・外来患者アンケート調査の実施、ご意見箱の投書内容への対応、院内スタッフ対象の接遇研修などを行います。医療における安全管理については、市民、患者に信頼される安全で安心できる病院を目指して、医療安全管理委員会、カンファレンス、ラウンドなどを定期的実施し、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めます。また、医療安全に関する市民への情報公開の方法等についても検討します。

続いて、6ページから7ページの(6)地域完結型の医療体制構築への寄与について、地域の医療機関との病診、病病連携を積極的に推進するとともに、介護、福祉施設との密接な連携を図ることで、地域医療の充実に貢献します。具体的には、在宅患者やそのかかりつけ医をサポートする後方支援病院としての役割を果たすため、医療連携登録医や協力医療機関連携施設等との連携を強化し、在宅患者等の増悪時の積極的な受け入れを行います。地域連携パス、退院支援チーム、開放型病床については、地域の医療機関や医師会と協議の上、必要に応じて実施を検討します。また、医療機器のオープン利用件数、医療連携登録医及び協力医療機関連携施設の登録数、紹介率、逆紹介率については、ご覧のように数値目標を設定しております。

続いて、8ページから9ページの(7)救急医療の充実にについては、救急受入件数、救急応需率の数値目標を設定し、基本方針である「断らない」という姿勢のもと、24時間365日受入体制を整え、地域住民が安心できる救急医療体制の充実に目指します。また、市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加に向けて、引き続き関係機関と協議を行うとともに、救急患者の市内受入率の向上を目指し、輪番病院のバックアップの役割を果たします。

(8)小児医療の充実にについては、常勤医師2名体制を目指し、小児の救急対応、入院患者の受入等小児二次医療体制の整備を行います。

(9)災害時医療の確保については、本年度に完成した生駒市立病院災害対策マニュアルに沿って現場スタッフによる実地訓練を行います。

(10)予防医療の啓発については、市民への予防医療の啓発として、認知症やうつ病、発達障害など、市民の要望が多いものの市立病院スタッフで対応できない分野について、市と共催で講演会等を開催します。また、胃がん、乳がん、子宮頸がん検診など未実施の健診については、実施体制の整備とともに関係団体等と協議を行い、実施を検討します。

続いて、10ページの(11)市民参加による運営については、市立病院の運営状況等について、病院事業推進委員会や管理運営協議会等を通して、市民等に情報を提供するとともに、市民等の意見を聴取することで、市民参加による病院運営を推進します。

(12)環境に配慮した運営はご覧のとおりでございます。

続いて、11ページ、2.施設管理計画でございます。今回から、新たに保守点検項目や点検時期など細かく計画に明記し、施設や設備の計画的、効率的な維持管理を推進

します。なお、外部委託業務内容は、12ページの3. 組織図の右下に記載しております。外部委託は設備管理業務、清掃業務などになっております。続いて、13ページの4. 収支計画でございます。今年度までは、月ごとの収支の計画を表記しておりましたが、今回からは、年度の中間期の9月末と年度末の3月末のみの収支計画を表記しています。まず、中間期の平成29年9月末時点での収支見積ですが、一日平均入院患者数は、上半期の平均で98人、外来患者数は、137.5人としております。入院患者数、外来患者数の増加を想定し、上半期の診療収入は、11億4,698万円を見積もっております。医業費用合計は、人件費の7億9,826万円を含め、上半期で13億7,747万円と見積もっており、医業利益としては、マイナス2億1,157万円を想定しております。また、その他費用、医業外収益、医業外費用を足し引きし、上半期時点での経常利益は、マイナス2億2,691万円を想定しております。次に、期末期の平成30年3月末時点での収支見積ですが、一日平均入院患者数は、年間平均で115.7人、外来患者数は、155.0人としており、平成29年度の診療収入は、26億7,350万円を見積もっております。人件費の16億2,142万円を含め、医業費用合計は29億714万円と見積もっており、医業利益としては、マイナス1億8,993万円を想定しております。また、その他費用、医業外収益、医業外費用を足し引きし、平成29年度は2億2,078万円の経常損失を見込んでおります。

平成29年度生駒市立病院事業計画書については以上でございます。

**【小紫会長】** ご説明ありがとうございました。事業計画書につきましては、前回のこの協議会の意見を踏まえ、指定管理者から正式に提出され、市としてもこれを承認しておりますので、計画書の内容を変更するというのではなく、実際に病院を運営していくにあたって何を意識してやっていけばいいのかといった提案や、ご意見をいただくというようなかたちで進めていきたいということです。その点はよろしく願いいたします。

それでは前回と同様、項目ごとのご質問にお答えいたします。まず、(1) 診療科目についてご意見、ご質問ございますでしょうか。

**【成田会員】** 生駒市として市全体で考えたとき、充実させてほしい診療科はありますか。

**【事務局（市）】** 病院事業計画に掲げる15診療科が生駒市にとって必要だということで、今現在は15診療科を充実させていくつもりです。今後は住民の方の医療ニーズなどを調査して、市として充実させるべき診療科の追加等、今後発展していくものと考えています。

**【小紫会長】** 他にご質問はありませんか。それでは、(2)の病床数について進めていきます。

【山上会員】 平成29年度末にはフルオープンを目指すということですが、医師会やいろいろなところでよく話を聞くのですが、市立病院が許可病床全てを使っていないなら欲しいという話があります。万が一、奈良県からベッド数を減らせという話があった場合、どのような対応を考えておられるか、お伺いしたいのですが。

【事務局（市）】 山上会員がおっしゃったことについて、現在、正式に奈良県から具体的な話はありません。ただ、大きな流れとして、県の地域医療構想を見ていると、将来的には、急性期の病床が余り、回復期、リハビリ期の病床が足りなくなるということは把握しております。しかし、まだそういったことを判断する時期ではないと市としては考えています。

【山上会員】 病床数が減ることについて、まだ検討していないということですよ。奈良県から言われる前に、もう考えておいた方が良いのではないかと私は思います。言われてからでは遅いように思いますが、どうでしょうか。

【事務局（市）】 山上会員がおっしゃっていることは、私共も感じております。しかしながら、この市立病院の趣旨として、まずは急性期で210床というのを目標に掲げたいと考えており、もう少し様子を見ていきたいと思っています。

【山上会員】 では、210床を維持する方向でお考えですか。

【小紫会長】 県のこともありますが、市立病院は速やかに210床を目指していくということです。山上会員がおっしゃられていることも、考えておかなければならないことですが、まずは210床を目指すということは変わらないということで、よろしく願います。

【井上会員】 後でお話しさせてもらおうと思っていたのですが、病床数の話が出たので、自分の認識している範囲で少し話をさせていただきたいと思います。ベッド数に関して、地域医療構想の中で急性期として進めていくというお話でした。2025年为目标で、地域医療構想の改革を全国的にやっていますが、その中で奈良県のデータを見ると、急性期の病床が約2000床多いということで、2000床減らさなければならないというのが県の意見です。その中で、稼働率が80%くらいというのが一つの目標となっています。それから、もう一点。医師対ベッドの比率は全国で医師一人当たり4～5ベッドくらいです。市立病院のデータを見ますと、医師対ベッドの比が来年度の末で、医師一人当たり8ベッドになっており、全国平均の約1.7倍くらいです。それから稼働率で申し上げますと、平成30年の3月の予想では55%強です。そうすると稼働率80%を目標とすると、やはり稼働率が低いと思います。私は患者がだんだん増えていくとい

うことで、2025年までに目標の80%に到達したらいいと思っていますが、現時点で言うと、来年度を目標にフルオープンということになると病床数が多い気がします。県の目標のデータと比較するとそう思います。

**【事務局（市）】** そういった数字というのも、こちらとしても承知しております。しかし先ほども申しましたように、まずは急性期中で210床を目指しています。

**【井上会員】** 確かに市立病院の状況から考えると、2025年を目標にだんだん上げていくということだと思います。ただ、来年無理やりフルオープンしていいのかなという気がします。それからもう一点、行政で大きく変わったことがあります。今までならベッドは申請して了解を得られれば良かったのですが、今年度から知事の権限で病床を取り上げることが可能になりました。5年ぐらい先までは変わらないだろうと思うのですが、それ以降は病床を知事の権限で持っていかれる可能性があります。私の考えですが、そのあたりを考慮して、稼働率も医師数も考えていくべきだと思います。

**【今村副会長】** 井上先生、貴重なご意見ありがとうございます。我々も、そのあたりは留意しています。市立病院はなにぶん新設の病院なので、既存の病院と同じように計算されると、相当苦しいと思います。病床数以外にも、医師集めに関しても、新設病院は実績が無いので、いろいろ評価してもらえないのも苦しいところです。しかし、井上先生のご意見を参考に対策をしていく必要があるとも思っています。

**【井上会員】** もう一点思い出したことがあります。大阪の市民病院でも取り組んでいることなのですが、地域包括ケア病床というものがあります。ベッド対医師数で、医師数がかかなり少なくて済みます。そういった対応も、考慮に入れてみてもいいかもしれません。

**【小紫会長】** いろいろありがとうございました。先ほどもございましたように、県のほうでも国でもいろいろな動きがある中で、地域包括ケア病床や療養病床といったこともあり、いろいろなことを考えていかねばならないということが将来的には出てくる可能性があります。しかし現時点では、計画の急性期の210床を目指すということだと思います。ただ、先ほど井上先生からお話ししていただいたことも頭の中に入れていながら、この計画書に基づいてしっかり対応していくということだと思います。いろいろとご意見ありがとうございます。

続いて、(3)の人員体制について、ご意見ありますでしょうか。

**【藤澤会員】** 15科目がありますが、常勤医師は何名確保されていますか。

【事務局（指定管理者）】 現在の常勤医師は14名です。

【小紫会長】 藤澤会員のご質問はこの計画書の中にある、常勤の27名の医師についてだと思います。常勤で27名を目指しているということなので。

【藤澤会員】 そうです。脳神経外科の先生はまだ確保されていない状況ですね、現時点で。各診療科の先生についてお聞きしています。目標というのはあくまで27名ですね。

【事務局（指定管理者）】 医師27名の内訳を説明いたします。現在の人数とどう違うかといいますと、一般内科は、今1名で、1名不足しております。消化器内科は、1名不足しています。一般外科は、2名不足しています。循環器内科は、2名おりますのでそのままです。脳神経外科は、常勤医師がおりませんので2名不足しています。脳神経外科は2名いないと手術が難しい点がありますので、目標を2名としています。形成外科は、現在1名ですので1名不足しています。小児科は、現在1名ですので、1名不足しています。泌尿器科は2名おりますのでそのままです。産婦人科は、現在院長1人ですので1名不足しています。リハビリ科はおりませんので、1名不足しています。麻酔科は2名おりますのでそのままです。救急科は医師がおりませんので、1名不足しています。血管外科は、現在1名不足しています。現在1人体制の診療科が多いですので、全ての診療科において複数の医師を配置し、複数の医師で診療する計画をしています。今現在、話がまとまりかけている医師が5、6名います。ある程度来年の3月までには、計画書の人数に近づくとお思います。

【小紫会長】 現在常勤医師は14名で、計画は27名を目指しているということです。15診療科全てに常勤の医師を配置するということと、基本的には複数で配置すること、現在5、6名の医師と交渉中で、ほぼ確定しつつあるということです。これを目指して、相当意欲的に計画書を設定してもらっているということで理解しています。

【藤堂会員】 現在、非常勤の医師は何名いらっしゃいますか。

【事務局（指定管理者）】 現在、非常勤医師は52名です。

【小紫会長】 人員体制については、以上でよろしいですか。

続いて（4）患者数についてご質問ありませんか。病床数に関連するかもしれませんが、追加でありましたら。

【藤堂会員】 患者数について、増加を見込んでおられているということで引き続き努力していただきたいと思いますが、現在、生駒市で高齢化が進んでいるということで、病



院にかかる可能性のある人や病院を必要とする人は増加傾向にありますか。それからもう一点、情報提供等に取り組みますと記載されていますが、それ以外に具体的に患者を増やすための対策はあるのですか、PR以外で。生駒市内で患者になる可能性がある人が増えていますかという質問の趣旨としましては、患者の総数が特に変わらないということであれば、生駒市内の既存の医療機関と患者の取り合いになるようなことはあまり望ましくないと思います。今、市外の病院で受診されている方にできるだけ市内の病院や市立病院を利用してもらうことや、これから増加する可能性のある方になるべく市立病院に来ていただけるのかという漠然とした質問なのですが。

**【事務局（市）】** 患者数を増やすということで、まずは医師を確保するという、それから情報提供をうまくしていきたいと考えていますので、PRの方法。それから一番大事なのは、近隣の医療機関との連携という、この3本を中心にしっかり進めていきたいと思っています。近隣の医療機関との連携の中に、そのような問題があります。どういふ方が市外の医療機関にかかっておられるかといったデータ等を活用して、うまく調整を取りながら広げていきたいと考えています。生駒市でうまく連携をとり、生駒市で診療を求められている方に、情報を出していきたいと思っています。その結果として患者数が増えてくればいいと考えています。

**【堀会員】** 人数を見ていますと、例えば入院患者で7月が95人、8月が105人、9月が105人です。7月と8月で一気に10人も増えるのというのは何か原因があるのですか。外来も同じように10月が150人、11月が170人。1ヶ月で20人も増えるということはあるのですか。素人の考えなのですが、風邪をひいて入院患者が増えることや、インフルエンザにかかる人が増えているのはわかるのですけれども、1ヶ月で20人も増えるというのはなかなか厳しいように思うのですが。

**【事務局（指定管理者）】** 季節変動もあります。例えば、平成28年度の平均入院患者数で、7月が80人、8月が105人で25人増えています。暑さがきつかったということもありますし、秋から冬にかけてインフルエンザなどの影響があり急激に入院患者が増えることもあります。今年の実績をもとにして計画を立てています。

**【山上会員】** 地域の医療機関との連携ということで、先ほどからお話しされていますが、平成28年度に医療機関へ訪問された延べ回数はわかりますか。

**【事務局（指定管理者）】** 申し訳ないのですが、延べ回数は手元に資料が無いため分かりません。

**【山上会員】** 実際、山上医院へは一度も来ていただけていないと思います。もっと積極

的に訪問してもらった方が良いと思います。問題があるかもしれませんが、市の病院事業推進課の方でも一緒に来ていただければ。市役所の職員の方なら顔もよく知っていますし、来ていただいたらと思います。わりと和やかな話もできると思います。それは指定管理者としては問題でしょうか。

【小紫会長】 行ったらいけないという決まりはないので、基本的に市立病院の地域連携室で対応していただきますが、そのときに同行したりすることもありかもしれません。そういうような機会であったり、ネットワーク協議会等を通して皆様に集まっていたりということ、市としてもしっかりやっていくつもりです。

続いて、(5) 質の高い医療に提供について。多岐にわたりますが、何かありますか。

【成田会員】 質の高い医療の提供ということで、市立病院に乳がん用のPET<sup>1</sup>を市が購入して生駒市の病院ならどこでも使えるようにするという考え方はありますか。

【事務局（市）】 ご提案は、地域医療全体のレベルアップ、また地域連携の推進という観点から考えたとき、有意義なことではあると思いますが、実際に患者のニーズ、地域の医療機関のご意向、あるいは財源の確保の問題などがありますので、市としては熟慮が必要と考えています。

【小紫会長】 指定管理をしていただいているので、こういった医療関係の設備などは原則、指定管理者にご対応していただきます。ただ、市立病院だけで使うということではなくて、実際に市立病院以外にも使ってもらえるようなニーズが出てくるのがあったときに具体的に検討できるような余地があるかもしれません。しかしながら、基本的には指定管理者にご対応いただくというのが原則です。ご提案というかアイデアとしては良いと思いますので、可能性は捨てずに前向きに考えていきますが、現時点ではすぐには動けないと思います。

【今村副会長】 ご提案ありがとうございます。医療講演会でも時々話しているのですが、この地域にも放射線治療ができる設備があればいいと思います。というのも、これから高齢化社会で、ご老人の方のがんが増えてくると思います。諸外国ではがんの治療は、放射線治療が多いですね。市立病院は放射線治療の場所も備えているので、もう少し運営が軌道に乗ってきたら3～4年後には放射線治療の機器を導入したいと考えています。それで、市民の皆様のでそういうことができるようになればと思っています。もし、それで市立病院が利益を上げるのはけしからんという声があれば、それを抜きにし

---

<sup>1</sup> positron emission tomography（陽電子放射断層撮影）の略。検査薬を体内に投与し、その分析を専用の装置で画像化する検査。がん等の腫瘍の大きさや場所の特定、転移状況や治療効果の判定、再発の診断等に利用されており、従来の検査に比べ、小さな早期のがんも発見できるとされている。

てでも市民の皆様に貢献したいと思っています。よろしくお願いします。

**【成田会員】** 私も5年前から近大病院にお世話になっていて、年に一回、検査のために西ノ京病院まで行っています。生駒市全体であった方が良い機器というのは、市の予算で購入するというのも、十分考えられる話だと思います。

**【小紫会長】** 特に入院患者が多いですが、市外に出ている方を市内の医療機関でということ、当然考えられます。その中で市立病院の指定管理契約と、市全体のことを考えたとき、両者をうまく考えると、具体的にどうしていったらいいかということ、今のご提案を含めて考えていきたいと思っています。

(6) 地域完結型の医療提供体制構築への寄与について、ご質問ありますか。

**【山上会員】** 紹介率、逆紹介率を入院と外来に分けて算出するのは難しいですか。

**【事務局（指定管理者）】** 今年度、紹介患者の入院の割合は22%、外来の割合は78%でした。

**【事務局（市）】** 紹介率の算定方法については、救急の患者も入っております。そういう意味で、外来と入院を分けての紹介率というのはまだ算出しておりません。いまお答えした内容というのは、紹介患者で市立病院に入院した割合と、外来でそのまま帰られた方の割合です。

**【山上会員】** それではなくて、何を言いたいかと申しますと、入院された場合、そこからの逆紹介率というのは、20%ではまだまだで、8割、9割というような。入院からの逆紹介を増やすというような考えをもっていただきたいと思っています。平均在院日数については、どうですか。

**【事務局（指定管理者）】** 平均在院日数については、現在のところ17日です。

**【今村副会長】** 逆紹介率の印象としまして、紹介で入院された患者というのは基本的には逆紹介しています。と言いますのも、内輪の話ですが、市立病院の外来の機能はそこまで強くなって、患者が退院したときに市立病院で全てを診きれません。だからほとんどもとの医療機関に返しています。逆紹介率の数字はもう一度、見直した方がいいですね。

**【事務局（指定管理者）】** この逆紹介率の計算式は、救急車の件数を含めての正式な計算式となっておりますので、救急車の件数が多くなれば、それだけ逆紹介率も下がって

きます。院長が言われたのは、クリニックの先生方から紹介された患者は、ほとんどクリニックに戻っていただいているということです。

【小紫会長】 今回の紹介率、逆紹介率について、市立病院に救急から入院した方、紹介を受けて入院した方、戻られる方などいろいろなケースがあります。逆紹介20%というのも、入院から逆紹介するという割合は結構高いということです。通院で逆紹介することもあります。もう少し詳細に数字にすることができれば、次の計画のときに出せると思います。

【今村副会長】 おそらく分母が総入院患者になっています。

【山上会員】 新患になっていると思います。

【事務局（指定管理者）】 救急車で運ばれて来た方も、全て含むというかたちになります。

【今村副会長】 山上先生が言われたのは、紹介された患者を分母にして、逆紹介された患者さんを分子にするということですか。

【山上会員】 普通の計算方法で問題ないと思うのですが、確かに救急が増えれば、逆紹介率は低くなりますね。

【今村副会長】 紹介された患者ではないですから、救急車で来られる方は。

【小紫会長】 このあたりがもう少し詳細になれば、山上会員からのご指摘もふまえて、次の事業計画とか報告で何か数字が出せればと思います。とりあえず、今回の計画はこのようなかたちです。それでは他にご意見ありますか。

次に（7）救急医療の充実について、いかがでしょうか。

（意見なし）

（8）小児医療の充実について、何かご意見ありますか。

【前野会員】 一市民の意見として、とらえてもらえたらありがたいです。生駒市で私が気に入っているのは、環境宣言都市と子育て支援が充実していて、ホームページも感じが良くて、若い世代がだんだんと増えている点です。しかし今、市立病院の病床数の計画は産婦人科はあまり減っていないのに、小児科は4～5床になっています。若い世代が安心して地域で暮らすためには、やはり小児科のドクターが複数いて、ここで入院しながら、生駒市立の小学校等と連携した院内学級みたいなことで勉強の遅れや仲間作り

というものが、また学校に戻ったときに安心してできるような、長期的な展望を考えてほしいと思いました。1～2年では無理かもしれませんが、そういうことも長期目標の中に入れてもらおうと、子育て支援とかがもうちょっと見えてくるのかなと思います。計画に小児医療の項目を入れてもらっているのはすごくうれしいのですけれども、あまりにも行数も少なく、ちょっと小児医療の充実というものが見えてこないなと思いました。一市民の意見として何かもうちょっと具体的に、長期展望を入れるという案がもし可能ならば入れてほしいと思います。

**【小紫会長】** ありがとうございます。今のご意見、ご質問に対していかがでしょうか。

**【事務局（指定管理者）】** 現在、小児科は入院患者をとっていません。小児科医が増えれば、当然入院も推進していきたいと思います。そういう中で、もし入院患者が増えますと、長期に入院される方がでてくるかもしれません。そういう場合、小学校や施設とタイアップして、教育の体制を考えていかなければならないかと思います。まず、そのためには小児科を充実させて、そういう方向に進めていきたいと思います。

**【小紫会長】** 貴重なご意見ありがとうございました。

**【藤堂会員】** 生駒市内に住んでいる幼児の孫がいますが、食物アレルギーをもっていて、大阪の専門の病院に通っています。喘息の発作が起こって入院しなければならないときに、生駒市外の病院に入院したこともあり、親が大変な思いをしたことがあります。将来的に、市立病院でもアレルギーを持っている子どもの相談にも乗っていただけるような外来があればありがたいなと思いますので、ご検討いただければと思います。

**【小紫会長】** 診療科目のところにありますけれども、市民の皆様や、医療関係機関からのニーズもまとめて、将来的には今お話しいただいたアレルギーの件や、認知症やうつ、発達障害など、全ての市民の声にお応えできないかもしれませんが、いろいろなニーズを把握したうえで、具体的にどう対応していくことかと思います。今のご意見もしっかり心にとめておきたいと思います。ありがとうございます。他に何かありますか。

**【成田会員】** 似たような話になりますが、市立病院で保育園と連携した病児保育をしてはどうですか。特に生駒市は大阪に働きに出ている共働きの夫婦が多いので、うまく連携してほしいです。共働きの夫婦は、子どもが熱を出したりすると、両親のどちらかが仕事から帰宅しなければならない状態です。生駒市は待機児童ゼロに近い、非常にいい状態であると思いますので、そういうことをすれば親としても非常に働きやすいと思います。

【小紫会長】 ありがとうございます。生駒市は残念ながらまだ待機児童はゼロではないのですが、平成30年度末にはゼロにしようと計画中です。病児保育については、今は阪奈中央病院で対応してもらっており、そちらの利用も増えてはいますが、例えばインフルエンザがすごく流行っているときでも、キャパシティ的にはまだ何とかあります。全体としてはまだ余裕があるということです。ただ、そのニーズがもっと増えてきたときに、市立病院としてどうするのか、違つかたちでの病児保育の受け皿を市としても当然考えないといけません、市立病院はスペースの制約があり、追加でいろいろな改修工事も必要になってきます。その部分を含めて、市立病院だけでなく市全体として、病児保育を受け皿としてどう考えるかだと思います。市立病院も可能性のある選択肢だと思いますが、市立病院以外のNPOや別の病院もあります。そこは市としてもいろいろな選択肢を考えていきたいと思っています。

【今村副会長】 病児保育の問題については、私も常々考えています。特に市立病院は駅前の良い場所にあるので、市立病院に子どもを預けて大阪に通勤できれば非常にいいと思っています。ですからそれに向けて何とかできないか、いろいろ対策を練っています。もう一つ、小児科については私も頭をすごく痛めています。もともとこの病院が出来るきっかけの一つに、小児医療を充実させたいという思いがあります。そのことについては私もいろいろと頭を悩ませていまして、小児科医はある程度的人数がいなくて入院患者は取れないのです。大学に行っているいろいろ話をして、市立病院は小児科医師の派遣をお願いしていますが、大学の先生方の認識では、生駒はそれなりに小児科医がいて、阪奈中央病院にもおられると。阪奈中央病院を中心に、小児医療をやっていったらどうかということです。ですから我々の病院に先駆けて、阪奈中央病院が小児科を充実しておられるので、大学としても今すぐ市立病院の方に話がなかなか進まないのです。将来的には、やはり市立病院が、病児保育も含めてできたらと努力しています。今後は市民の皆様のご支援を得ながら進めていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。今のところ思っていたようなことが出来なくて申し訳ないと思っています。

【小紫会長】 小児医療については以上でよろしいですか。

(9) 災害時医療の確保について何かご質問ありますか。よろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは(10) 予防医療の啓発について、どうでしょうか。

【山上会員】 予防医療ではないかもしれませんが、認知症やうつ病の方への対応ということで、市立病院はとてもきれいな病院なので、認知症カフェなどに貸していただくということはできますか。会議室などの使用料は発生しますか。

【今村副会長】 使用料などはとっていません。

【山上会員】 できればそういったことでまず、市立病院に人が来てもらうことが大事だと思います。昼間の1階の待合室は本当に静かな雰囲気ですので、活気を出すためにたくさんの人に来てもらう方法を考えてみてはどうかと思います。市民講座はされていますが、それはその一回で終わりますので、定期的に市民に来ていただけるような方法を考えておられることがあればお伺いしたいのですが。

【事務局（指定管理者）】 院内のこの場所（7階 講堂・交流センター）で医療講演会を実施しています。市民の方が気楽に来られるような雰囲気づくりをしていきたいと思っています。また、市立病院は6月に開院したので、この6月に病院で健康祭のようなものを市と協力しながら開催する予定です。市民の方々が来られるようなものを作りたいと思います。

【山上会員】 生駒市は非常に吹奏楽などが盛んな市ですので、1階の待合室は良いコンサートホールになるんじゃないかと。そういうことをやっておられる病院などもあり、私としては非常にいいのではないかと考えています。

【今村副会長】 今までロビーコンサートは年2、3回やっています。山上先生が言われるように週1回でもあればいいかもしれません。例えば土曜のお昼からでも、市民の方のコンサートホールにしてもらっても良いかと思っています。

【小紫会長】 補足でもないのですが、吹奏楽も含め生駒市は非常におしゃれな街です。音楽祭でも市民でつくろうとなると、すごくやる気をもって手をあげてくれる方がおられます。市役所の中で演奏してくださるというプロの方もいらっしゃいますし、市としてもそういった方を紹介していきたいと思っています。生駒市は認知症の取組も非常に進んでいるまちですし、認知症カフェの取組もやっていっているのですけれども、市立病院でやるとなるといろいろ考えなければならぬことも出てきます。いずれにせよ人に来てもらわないと市立病院がどんなところかわからないと思います。外から見ただけでなくて、一度足を踏み入れてもらうことが大事だと思うので、市立病院を知ってもらうという取組はしっかりやっていきたいと思っています。

【藤堂会員】 生駒市は南北に長い市ですので、市立病院はその中央部にあって立地条件はいいと思いますが、生駒市の端の方に住んでいる方にとっては、残念ながら市立病院にそれほどなじみがない部分があるかと思っています。ですから出張講座のようなもので、自治会等に来ていただけるようでしたらありがたいです。もし病院の先生がお時間を割いていただけるようでしたら、実際に先生と地域の方が直接お話ししてもらえたら、そこで市立病院のこともよくわかるし、親しみもわいてくるのではないかと思いますので、

希望される地域があればご協力いただけますでしょうか。

【今村副会長】 もちろん協力させていただきます。私も鹿ノ台に行ったことがあるのですけれども、鹿ノ台の皆様はほとんど奈良市の病院に通っていたようです。

【小紫会長】 計画の中の医療講演会というところで、自治会への出張講座を含むということも書いていただいていますし、お忙しい中かと思いますが、地域に出向いていただくこともご検討していただけたらと思います。

10ページ目の(11)市民参加による運営、何かご意見ありますでしょうか。

【藤堂会員】 最近、病院に対する考えが変わったことがあります。岡山県の倉敷市にある児島市民病院の話聞いたのですが、その病院は一度つぶれかけたことがあったそうです。あまり詳細なことは知らないのですが、インターネットで見たり、病院に行ったときに話を聞いたところ、2006年か2007年あたりに院内でいろいろ問題が生じていたようです。そのときに内科の先生が全員辞められて、産婦人科もなくなり、病院が非常に危機にひんしたようなことがあったらしいです。平成21年に、岡山大学の病院の院長をされていた方が来られて、病院を立て直されたそうなんですけれども、去年8年ぶりに新しく分娩、産科を再開したということです。その経緯を聞いてみましたら、市民の方が病院を守るために、組織をつくられて病院を支援されたというようなことがあったそうです。その病院は医師会との連携もしっかりされていて、地域医療に貢献されている病院のようですけれども、内部事情はあまりわかりませんが、生駒市民はどちらかというところちょっと冷めた目で、斜め上か横から市立病院を見ているような意識があります。しかし本当に市民の病院だと考えるのなら、市民の病院を応援するという気持ちを持たないといけないとそのとき思いました。児島市民病院はけっこう古い病院なんですけれども、今は新しく病院を建築されていて、看護師さんも非常に親切で、印象は良かったんですけれども、そのとき、病院が一旦だめになりそうだったことをあきらめないうで病院の先生も市民も頑張られたというようなことがあったようです。児島市民病院について調べてみましたら、市立病院と病床数もそれほど変わらない200床ほどでした。毎日受診される患者さんは300人ぐらいかなと思います。最新のデータがまだないのですけれども。必ずしも常勤の先生がそれほど多いわけではないみたいです。それが、それで頑張っておられるようです。生駒市民としても医者がいないのではと批判するばかりではいけないなと思いました。児島市民病院では、病室のベッドのところに担当医の名前が書いてあって、その横に看護師さんの名前も入っていました。看護師さんは交替されるので、その日担当される方が病室まで来て「今から私が担当します。よろしくお願ひします。」と言って自分の名札を病室に置いていかれました。今まで他の病院でも担当医の名前は書かれていましたが、看護師さんがそういう対応をされているのは初めてでした。そういう点でも、患者として安心できるポイントになっているかもしれ



ないと思われました。

**【小紫会長】** いろいろご紹介していただき、ありがとうございました。生駒市立病院も、まさに市民の皆様のお声と応援をいただいでできたことが大きいと思っています。その分厳しいご意見をいただくこともあります。市民の皆様と、この運営協議会もそうですが、いろいろな活動、NPO活動もありますし、応援してくださるたくさんの市民の皆様もいらっしゃいます。市役所も市立病院も、市民の皆様としっかり連携し、いまご紹介していただいた具体的な内容も含めて、頑張っていきたいと思っています。非常にいい事例を紹介していただき、ありがとうございました。

それでは、最後に（12）環境に配慮した運営ですけれども。

（意見なし）

それでは2. 施設管理計画について何かご意見ありますか。

（意見なし）

3. 組織図もよろしいですか。

（意見なし）

最後に4. 収支計画について、何かご意見ありますか。

**【堀会員】** 一般企業の立場から言わせていただきますと、経費に占める人件費の割合が人件費率で55.8%なんです。ですから大半が人件費で、医者の給与は27名で月々1,285万円。それ以外の215名でその他の費用、人件費は12億7,442万円です。これを215名で割りますと、593万円です。ですから看護師、事務職がそれだけもらっておられるかどうか、そういう比率では高すぎるのではないかと。12億7,400万円を10億5,000万円に落としますと、経常利益のマイナスの2億1,000万円が消えてしまうと。そういう考えもあるということで、ご意見を伺わせてもらえますでしょうか。

**【事務局（指定管理者）】** 人件費の率でいきますと、やはり基準がございますので、ある程度、医者と看護師の確保というのは決まりがあります。医業収入によって、人件費率は大きく変わります。収入が増えますと、人件費は固定費なので、人件費率は当然下がってきますけれども、今のところ入院患者が少ないという状況もありますので、先ほど言われました人件費率は当然上がってくるかと思えます。人件費につきましては、昨年度支払った人件費に基づいて計算しています。特に秋から冬にかけてフルオープンを考えていますので、その分職員の増加というのも考えておりますので、比率としては現在高くなっています。

**【小紫会長】** 他に収支についていかがでしょうか。

【成田会員】 収支計画で、後半は黒字化するという事でよろしいですか。

【事務局（指定管理者）】 病院というのは、4月、6月は入院患者が減少して、秋から冬は入院患者が増えます。計画も後半に重点を置いたものとなっております。それで単月ではありますが、11月、12月、3月は少し黒字計上できると思っています。

【小紫会長】 他にいかがでしょうか。改めて資料1、資料2について全体を通したご質問などございませんか。

【成田会員】 全体として生駒市側で、生駒市は来年度こういったことをしていきますという事業計画はないのでしょうか。

【小紫会長】 この事業計画自体は、市立病院に原案を作ってもらっていますが、市とも協議させていただいて承認したものです。ですから当然、この事業計画書は市の思いというか、方向性も入ったものになっています。

【成田会員】 生駒市が主体となって、市立病院ではなく、例えば病院にこういったものを置いていくという検討を、この期間で行っていきますというようなものです。生駒市側が、市立病院とはまた別に主体として、市立病院を市民の病院として良くするための計画というものを。

【小紫会長】 昨年度、市立病院もそうですけれども、市内の医療機関、介護福祉の関係の皆様が集まって、地域医療に関するネットワーク協議会というものができ、地域の医療や介護福祉をどうつないでいくかということも、もちろん市が主導で、私が会長という形でやっています。そういうことをやっていく中で、もちろん市立病院もその中の重要な一角ですが、生駒市全体の医療や介護、福祉の連携、最近では部会で認知症予防や対策、在宅医療介護の推進という、大きくまずはその2つの部会を作って、しっかり医師会や福祉関係の機関と連携してやっています。例えばその中で市立病院が担っていく役割だとか、市としても市立病院と協力してやっていくことが、当然出てくると思います。もちろん医療関係、福祉関係は、市の仕事でもありますのでそういう観点から、まずはきちんとやっていくことかと思えます。先ほど医療機器設備などの話を申し上げました。それは一つの考え方としてあると思えますけれども、まずは大きな医療、福祉のあり方として、市が主導してやっています。

【事務局（市）】 いま会長が申しましたのは医療介護連携ネットワーク協議会で、井上会員にもご参加いただいています。部会の一つが、山上会員が部会長の認知症対策部会。もう一つに、在宅医療介護推進部会がございます。その中で課題がいろいろ出されてお

り、来年度、市が予算計上しているものが二点あります。そのうちの 하나가、入退院時の支援のマニュアルです。例えば、在宅でおられる方や、介護されている方が入院されるとき、退院されるときに基本的なルールのようなものを、医療圏や市町村ごとに作ろうという動きがあり、生駒市の方々にも必要だということで、来年度それを作るための予算を、県から補助をいただいて計上しています。その中には会長がおっしゃいましたように、市立病院の地域医療連携室の担当も入っております。それともう 하나가、医療と介護のいろいろな施設でどういうサービスができるかという情報が統一されていない部分があるので、それを資源集というかたちで、この病院ではこういうことができるというものをデータとして集めました。それを今年度、生駒市の医師会が資源集という冊子にまとめられて、各施設で共有しようといった取組や、それを今後どういう形でデータベースにしていったらいいかということを検討中です。その枠組には市立病院も入っているということでご理解いただきたいと思います。

**【井上会員】** 地域医療の件で、話が戻って申し訳ないのですがけれども、奈良県の二次医療圏の中で、実は西和地区が圏外に流出している患者が一番多いです。それを私自身もいわゆる地域完結型で、なんとかならないかと思っていますがなかなかうまくいきません。それならば、この市立病院で生駒地区の中での話になるのですが、実は市民の人はかなり大阪の方に流れているのが現状です。これは認めざるを得ない状況です。さらに今度成人病センターが、この3月25日にすごくきれいになりオープンします。日赤病院も新しくなり、きれいになっています。これではさらに患者が流れてしまいます。この流れを何とか止めたいのですが、その中で一つ提案がありまして。地域連携を生駒市だけで考えるのではなくて、実は成人病センターなどはいわゆる高度急性期の病院ですので、当然在院日数の短縮を迫られています。10日と数日で退院せねばならないこともあります。だからそういう病院と切り切って連携すればいいと思います。生駒市民の人が出て行かれたら、早期に生駒に戻ってきてもらうというような連携も、計画の中に入れていいかなというのが自分の考えです。ご検討していただいたらいいなと思っています。

**【小紫会長】** さっきの地域医療構想の話と、少し関連するようなところになってきていると思いますが。

**【事務局（市）】** こちらの方も調査した結果がございます。今おっしゃっているように市外流出率で、入院の方は6割3分くらい出ておられるわけです。また、外来の方では3割強の方が市外に出ておられるという状況になっております。これは先ほども言いましたように、うまく連携をとりながら市外へ出ているものに対して、何かいい方法がないか早急に手を打っていきたい思いは行政としてはあります。

【井上会員】 成人病センターの先生方は、生駒に市立病院ができたということを全然ご存知ないのです。それがちょっと残念かなという気がします。

【小紫会長】 ありがとうございます。先ほどの地域医療構想の話にも関係してくると思いますけれども、成人病センターやそういったところに知っていただくこと。あとは急性期210床のことをしっかりやっていくといったことだと思います。地域医療構想がどのように具体化していくのか、どのくらいのタイミングでかたちになっていくのかなど、ある程度状況をしっかり見極めながら、どのようにして他の病院との連携があり得るのかというようなこと。今さっきも言いましたように、きちんと可能性としては想定しながら中長期的に見ていき、まずは単年度の平成29年度の計画書でございますが、そこは中長期計画の一つとして考えています。非常に貴重なご意見をいただきましたので、しっかりと考えてまいりたいと思います。それでは他にご意見ございますか。

【藤堂会員】 地域医療と関係するかもしれません。市立病院でも、医師会に加入される努力はされているという文言も書かれてありましたが、地域の医師会の方々とも信頼関係を築いていただいた上で、しっかり連携していただけるような関係性を築いていただきたいです。市民の立場からするとお医者さんというのは、どちらの方でも一緒なので、よろしくお願ひしたいと思います。この市立病院ができたときのイメージとしては、メディカルセンターの機能が移行されるのかと思っていたのですが、なかなかそういう感じでもありません。そのあたりについても、今後うまく連携してやっていただければと思います。よろしくお願ひします。

【小紫会長】 ありがとうございます。当然そういったことも、しっかり考えていかなければならないと思っています。今日は計画に対してもそうですし、いろいろ考えなければならぬのではといったこと、具体的にこういった事例があるといったことまでも話していただき、全ての会員の皆様からご意見をいただくことができました。我々としてもしっかりとそれを持ち帰って、この計画を実施していくにあたって活かしていかなければならないと、心新たにしているところでございます。この事業計画につきましては、生駒市議会の3月議会の厚生消防委員会でご報告させていただきます。21日には病院事業推進委員会がありますので、そちらでもご意見をいただくということになっています。その他、計画のこと以外で何かご意見ございますか。

(意見なし)

それでは事務局からお願ひします。

【事務局(市)】 今期の会員の皆様の任期でございますが、生駒市立病院管理運営協議会設置要綱第4条第1項の規定により「協議会への出席を依頼した日から、その日の属する年度の翌年度の末日まで」となっており、この3月末をもちまして任期満了となるこ

とから、本日の会議が今期の会員の皆様での最後の会議となります。会員の皆様には、長期にわたり本協議会で色々なご意見をいただき、ありがとうございました。新年度からまた、新たな体制でスタートさせていただきます。なお、新年度につきましては、平成28年度事業報告書が5月末に提出されますので、その後、昨年からはじめております実施状況調査を行い、7月から8月頃に当協議会を開催し、取組の評価、課題について会員の皆様からご意見をいただく予定になっておりますので、よろしく申し上げます。事務局からは以上です。本当にありがとうございました。

**【小紫会長】** それでは本日の案件は全て終了しましたので、以上を持ちまして今日の会議は終了とさせていただきます。皆様には大変お世話になりました。管理運営協議会という我々にとっても大変貴重な、今後の事業計画を作るにあたっての基礎となるようなものを作っていたいただいた5回の会合だったと思います。改めまして御礼を申し上げます。これからも、皆様には引き続きご指導いただきながら、この病院にかかる全ての患者さんの安心安全のためのすばらしい病院にしていくために、市立病院のスタッフの皆様、生駒市の市民の皆様、医療関係者の皆様、全ての方と連携してしっかりとこの生駒市立病院を発展させていきたいと思っています。改めまして感謝とお願いを申し上げまして、私から閉会の挨拶とさせていただきます。今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。